# 栄養に係る教育に関する科目における栄養教諭としての実践力の育成

女子栄養大学専任講師　中西明美

1.はじめに

平成17年4月に栄養教諭制度が開始され、10年が経過した。現在、学校栄養士全体の約半数にあたる5,428名[1]が、栄養教諭として小中学校に配置されている。

栄養教諭は、各学校における指導体制の要として食育の推進において重要な役割を担うことが期待されている。平成28年に政府の食育推進会議において決定された第3次食育推進基本計画[2]では、「栄養教諭は、学校の食に関する指導に係る全体計画の策定、教職員間や家庭との連携・調整等において中核的な役割を担う職」と示されている。また、全ての児童生徒が、栄養教諭の専門性を生かした食に関する指導を等しく受けられるよう全都道府県における栄養教諭の早期の配置を求めている。栄養教諭の配置が進むことにより、各学校において、栄養教諭を中心とした食に関する指導の全体計画が作成されることや食に関する指導が体系的・継続的に学校全体の取組となることが期待されている。栄養教諭が食に関する指導を行う第一義的なねらいは、給食管理と食に関する指導を一体のものとして行うことにより、地場産物を活用した給食と食に関する指導を実施するなど、教育上の高い相乗効果がもたらされることである。

こうした体制のもと、各学校で勤務している栄養教諭は、食に関する指導の教材となるような献立を作成して、それを活用した食に関する指導を実施している。総務省の食育の推進に関する政策評価によると、栄養教諭配置校では、配置されていない学校に比べ、食に関する指導の取り組み体制が整い、食に関する指導の時間は長く、充実していること[3]が示されている。また、文部科学省では、平成26年度より、学校における食育をさらに推進するため、各種外部機関と連携した食育プログラムを開発するスーパー食育スクールを指定し、栄養教諭を中心に外部の専門家等を活用しながら食育の推進を図るモデル事業を実施し、食育のさらなる充実を目指している。スーパー食育スクール事業については、事業を実施している地域では、朝食の摂取頻度が上がり、給食の残菜率が減少する等の効果が示されている[4]。こうした先進的な取り組み事例はみられるものの、栄養教諭を配置することによる教育的効果は十分に示されているとはいえない現状もある。前述の総務省の食育の推進に関する政策評価には、子どもの食に関する認識や実践の状況については、栄養教諭配置校と配置されていない学校において、大きな差はみられなかったと結論づけられている。まずは、各学校における食に関する指導の内容を見直すことが必要であると思われる。しかし、これだけではなく、こういった結果が示される一因には、学校における食に関する指導の評価結果が十分に示されていないという課題があると考える。現在実施している食に関する指導をどう評価していくのかその方法論が必要となってくる。

現場で働いている栄養教諭が抱えている課題は、栄養教諭免許取得を目指している学生の課題でもある。栄養教諭を志望している学生にとっても、これらの課題を解決できる力を身に付けていく必要がある。

本大学の栄養に係る教育に関する科目である栄養教諭論と栄養教諭論実践研究において、栄

養教諭としての実践力が身に付けられるよう授業内容を組みこんでいる。本稿では、栄養教諭としての実践力を養成する視点で、本学における栄養教諭論と栄養教諭論実践研究におけるカリキュラム内容について検討した。検討には学生の授業評価を活用し、今後の課題をまとめた。

2.栄養教諭論と栄養教諭論実践研究の達成目標と位置づけ

本学の栄養教諭論は3年前期に実施され、その後、3年後期に栄養教諭論実践研究が実施される。

栄養教諭論の達成目標は、栄養教諭の社会的使命や職務内容を理解できることと、食に関する指導の全体計画や学習指導案を作成できようになることである。この授業を受講することにより、学生は栄養教諭の仕事内容を具体的に理解できるようになることをねらっている。

栄養教諭論を実施後に開講する栄養教諭論実践研究の達成目標は、栄養教諭の基本理念を踏まえ、学校における食育推進者としての役割を説明できることと、学校において食に関する指導の全体計画、給食指導年間計画を作成し、これらに基づいた食に関する指導と給食管理の方法を説明できるようになることをねらいとしている。

この授業後、栄養教諭教育実習や教職実践演習（栄養教諭）の授業が続く。これらの授業では、栄養教諭論や栄養教諭論実践研究で学んだ基礎的な知識やスキルを踏まえ、実際の教育現場において、より実践的に学んだり、児童生徒へ実際に調査を実施し、集計することで、栄養教諭として必要な資質能力を養ったりすることができる。

3.栄養教諭論と栄養教諭論実践研究の授業概要と授業計画

授業計画を表1に示す。栄養教諭論では、毎回の授業で、小・中学校における実際の実践事例を写真で紹介しながら、栄養教諭の仕事内容を具体的に紹介する。各回の授業における特徴のある内容について示す。3回目の栄養教諭の職務内容では、職務内容を紹介すると共に法律に示されている栄養教諭の職務についても学習する。ここでは、法律の原文を学生自身が読みながら、栄養教諭の職務に係る箇所を読み込んで各自が整理する。6回目の食に関する指導教材では、小中学校で栄養バランスを学ぶために使用されている教材、3色食品群や6つの基礎食品の特徴を理解するため、各自が食べた1日分の食事を分類してみる。こうすることで、これらの教材の特徴をしっかりと理解することができるようになる。7回目の給食時間における食に関する指導では、数人のグループで5分間の給食指導内容を考え、模擬授業を実施する。給食指導は短い時間で、その日の給食を教材として行うことが特徴である。実際に模擬授業を行うことで、体験的に習得することができる。11回目の児童生徒への個別的な指導では、あらかじめ準備した2つの症例をもとに子どもへの指導場面を想定したロールプレイを実施する。2名1組となり、栄養教諭役と子ども役の両方を体験してみるようにしている。15回目の学習指導案の作成では、各自が食に関する指導の学習指導案を作成してみる。想定した条件のもと、学級活動の時間に指導案を作成する。題材名は、学生各自で設定する。ここでは、目標の設定とその目標に呼応する評価項目が設定できていたか、学習過程のどこでそれを評価するかをきちんと設定できるようにする。これらの学習を通して、栄養教諭の職務内容を具体的に理解できるようにした。

栄養教諭論実践研究の授業計画を表2に示す。この授業では、栄養教諭論で学んだ内容をもとに、現場の栄養教諭が職務として作成しなければならない食に関する指導資料の作成と模擬授業を行う。1回目から9回目までは、全体計画、学習指導案、授業における教材作成、教材となる献

立の作成、給食時間における指導案を実際に作成する。10回目は、模擬授業のための教材作成、11回目から14回目までは、模擬授業を行い、互いに授業内容について評価し合う。こうすることで、栄養教諭が授業を行う上で必要となる指導内容や指導方法を身に付けるようにした。15回目は、食に関する指導計画の修正案の作成である。修正案は、模擬授業で互いに出された意見をもとに修正を行う。こうすることで、より実現可能性の高い指導案を作成できるようになる。

4. 授業実施の評価(プロセス評価)

1)授業評価にみられる調査結果からの評価

表 3 に栄養教諭論の授業評価の結果を示す。受講したことでその分野の知識や考え方に広がりが出てきたかについて、そう思う 15 名(58%)、ややそう思う 11 名(42%)であり、全員がそう思うと回答し、た。自分で学ぶ習慣ができたかについては、そう思う 5 名(19%)、ややそう思う 17 名(65%)であった。否定的な回答である、あまりそう思わない 4 名(15%)であった。

表 4 に、栄養教諭論実践研究の授業評価の結果を示す。この授業において、受講したことでその分野の知識や考え方に広がりが出てきたかについて、そう思う 19 名(76%)、ややそう思う6名(24%)であった栄養教諭論より、そう思うと回答した学生が 4 名(18%)増加した。自分で学ぶ習慣がついたかについては、そう思う 12 名(48%)、ややそう思う 13 名(52%)であり、全員が学ぶ習慣がついたと回答した。栄養教諭論に比べ、そう思うと回答した学生は 7 名(29%)増加した。

2)授業評価にみられた自由記述からの評価

表 5 に栄養教諭論の授業評価にみられた自由記述についてまとめた。最も多かった意見は、学校における実際の仕事内容からの学びで、7 名の学生があげていた。実際の授業の様子を実際にすることができたことがよかったと記述されていた。また、学校や子どもに対する理解の深まりや学校で働くことに対する意欲の向上を示す記述もみられた。授業改善の要望としては、プレゼンテーションやロールプレイの時間がもっとほしいという意見であった。

表 6 に、栄養教諭論実践研究の授業評価にみられた自由記述についてまとめた。最も多かった意見は、作業量の負担に対する授業改善の要望であった。今回の授業では、1 名ずつ、食に関する指導資料を作成するようにした。そのため、作業量が多く負担に感じた学生が 10 名いた。関連した意見として、グループワークがよかったと記述した学生も 3 名いた。その反面、1 名で学習したことをメリットと捉えて学生も少数ではあるがいた。1 人ですることは大変ではあったが、1 人で全体計画から指導案まで考えることは、多くの学びを得たようである。互いに模擬授業を実施したことは、自分だけでは気がつかない発想や視点を知ることができ勉強になったようである。

5. 成果と課題

本稿では、栄養教諭としての実践力を養成する視点で、本学における栄養教諭論と栄養教諭論実践研究におけるカリキュラム内容について検討した結果をまとめた。これらの結果から、成果と課題を以下にあげる。

成果としては、栄養教諭論では、栄養教諭の職務について、具体的な例を示したこと、体験的な学習を取り入れたことにより、受講分野の知識や考え方に広がりがでたという項目では全員が肯定的な回答をしていた。これに続く栄養教諭論実践研究の同じ項目で、ややそう思うが減り、そう思うが増えていた。これは、栄養教諭論での学びが栄養教諭論実践研究につながり、さらに学びが深

まったと考えられた。

次に今後の課題について述べる。1 点目は栄養教諭論実践研究の作業量の負担が大きいと考える学生が多かった点である。前述のとおり、栄養教諭論実践研究では、受講分野の知識や考えに広がりがでたという回答から、授業目標は概ね達成できたと考える。しかしながら、授業時間外に行う作業量が多かったことに対して負担感を感じた学生が多かったことがあげられる。この分野の知識や考え方を身に付けつつ、作業量をおさえることができるワークシートの作成と学習方法を検討していくことが課題として挙げられる。

2 点目は、これら2つの授業では、評価を体験的に学ぶことができない点があげられる。この点については、学生の授業評価には見られなかったが、現場の栄養教諭の課題でもある重要な課題である。食に関する指導の評価方法については、栄養教諭論実践研究では、学生たちが想定した条件にあう目標と評価項目を設定する学習を入れているため、理論的には理解していると考える。しかしながら、授業内では、実施内容に対する結果を得ることができないため、目標に対して出された結果をどのように評価するかということを体験的に学ぶことはできない。

この点については、これらの教科の後に続く、教職実践演習において、体験的な学びができるようカリキュラムが組まれている。具体的には、調査票を設計、結果を集計、解析後、評価を行う。実際のデータ用いて評価を行うという経験は貴重な経験である。

今後も、前後で実施される教科の学びとつながりのある授業内容を検討し、栄養教諭としての実践力を養っていきたいと考える。

参考文献

1)文部科学省:学校給食実施状況等調査-平成 27 年度結果の概要,http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/kyuushoku/kekka/k_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/01/18/1381230_1_2_1.pdf(平成 28 年 2 月 3 日アクセス)

2)文部科学省:第 3 食育推進基本計画,http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000129496.pdf(平成 28 年 2 月 3 日アクセス)

3) 総務省:食育の推進に関する政策評価,http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/99039.html(平成 28 年 2 月 3 日アクセス)

4)文部科学省:スーパー食育スクール事業について,http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1353368.htm(平成 28 年 2 月 3 日アクセス)

(本学　給食システム研究室)

表1 栄養教諭論授業計画

| 回 | 学習課題 | 学習内容 |
|---|---|---|
| 1 | 栄養教諭の使命と役割 | 栄養教諭制度創設の経緯や栄養教諭求められる役割を理解する。 |
| 2 | 学校給食の歴史 | 学校給食の始まりから現在までの食事内容の推移を時代背景との関わりを含めて理解する。 |
| 3 | 栄養教諭の職務内容 | 学校給食法、食育基本法、食育推進基本計画にしめされている栄養教諭の役割を理解する。 |
| 4 | 食に関する指導のためのアセスメント | 食に関する指導を実施するための資料収集、課題や目標の明確化について、事例をもとに理解する。 |
| 5 | 食に関する指導の計画 | 食に関する指導の全体計画、教科等における指導計画、給食時間における指導計画について事例をもとに理解する。 |
| 6 | 食に関する指導教材 | 生きた教材としての学校給食や食生活学習教材等の指導教材について、事例をもとに理解する。 |
| 7 | 給食時間における食に関する指導 | 給食時間における指導内容や給食委員会を活用した指導を事例をもとに理解する |
| 8 | 教科における食に関する指導 | 生活科、家庭科、技術・家庭科、体育科、保健体育科における食に関する指導内容について事例をもとに理解する。 |
| 9 | 教科外における食に関する指導 | 道徳、総合的な学習の時間における食に関する指導内容について事例をもとに理解する。 |
| 10 | 特別活動における食に関する指導 | 特別活動(学級活動、学校行事、児童会活動、生徒会活動)における食に関する指導内容について事例をもとに理解する。 |
| 11 | 児童生徒への個別的な相談指導 | 学校における個別栄養相談の意義と特徴を知り、事例を用いて個別栄養相談の指導方法とその内容を理解する。 |
| 12 | 食に関する指導の連携・調整 | 家庭や地域と連携した取り組み方法について実際に行われている方法をもとに理解する。 |
| 13 | 食に関する指導の評価-授業実施時における評価 | 食に関する授業実施における評価方法について実際の事例をもとに理解する。 |
| 14 | 食に関する指導の評価―年間を通じた評価 | 食に関する指導の年間の評価するための評価の枠組み、段階、指標を実際の事例をもとに理解する。 |
| 15 | 学習指導案作成の実際 | 特別活動における学習指導案を実際に作成してみて、学習指導案に示すべき項目を理解する。 |

表2 栄養教諭論実践研究の授業計画

| 回 | 学習課題 | 学習内容 |
|---|---|---|
| 1 | 学校における食育推進者としての役割 | 学校における食育推進者として、学内外でどのような役割をなすべきか理解する。 |
| 2 | 食に関する指導のためのアセスメント① | 食に関する指導計画作成のための資料収集と教育目標の設定ができる。 |
| 3 | 食に関する指導のためのアセスメント② | |
| 4 | 食に関する全体計画の作成、年間計画の作成 | 課題解決するための食に関する指導の全体計画と年間計画の作成ができる。 |
| 5 | 学校給食年間計画作成 | 学校給食年間計画作成と教材とする学校給食献立の作成ができる。 |
| 6 | 食に関する指導の学習指導案作成 | 課題解決するための食に関する指導の学習指導案が作成できる。 |
| 7 | 食に関する指導の学習指導案作成 | |
| 8 | 給食時における指導内容の作成 | 学校給食を生きた教材として活用した給食指導の計画を作成する。 |
| 9 | 食に関する指導の評価計画の作成 | 作成した食に関する指導の計画に対する評価項目を設定できる。 |
| 10 | 学校給食を生きた教材として活用した指導方法 | 食に関する指導の指導内容の検討して、内容にあった教材を作成できる。 |
| 11～14 | 模擬授業と評価① | 食に関する指導の模擬授業を行うことができる。<br>模擬授業を見て、内容を評価できる。 |
| 15 | 食に関する指導計画の修正案作成 | 模擬授業の評価を踏まえ、修正案を作成できる。 |

表3　栄養教諭論　授業評価

| | そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|
| この授業に集中できた | 15名（58%） | 11名（42%） | 0名（0%） | 0名（0%） |
| 受講したことでその分野の知識や考え方に広がりが出てきた | 15名（58%） | 11名（42%） | 0名（0%） | 0名（0%） |
| 授業は明瞭で聞き取りやすく、総合的に判断してわかりやすい授業だった | 17名（65%） | 9名（35%） | 0名（0%） | 0名（0%） |
| 自分で学ぶ習慣ができた | 5名（19%） | 17名（65%） | 4名（15%） | 0名（0%） |
| 講義の要点がつかみやすかった | 12名（46%） | 14名（54%） | 0名（0%） | 0名（0%） |
| この授業を受けてよかった | 17名（65%） | 9名（35%） | 0名（0%） | 0名（0%） |

表4　栄養教諭論実践研究　授業評価

| | そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|
| この授業に集中できた | 12名（48%） | 13名（52%） | 0名（0%） | 0名（0%） |
| 受講したことでその分野の知識や考え方に広がりが出てきた | 19名（76%） | 6名（24%） | 0名（0%） | 0名（0%） |
| 授業は明瞭で聞き取りやすく、総合的に判断してわかりやすい授業だった | 13名（52%） | 10名（40%） | 2名（8%） | 0名（0%） |
| 自分で学ぶ習慣ができた | 12名（48%） | 13名（52%） | 0名（0%） | 0名（0%） |
| 講義の要点がつかみやすかった | 12名（48%） | 11名（44%） | 2名（8%） | 0名（0%） |
| この授業を受けてよかった | 15名（60%） | 10名（40%） | 0名（0%） | 0名（0%） |

| | A | B |
|---|---|---|
| 1 | 表5 栄養教諭論 授業評価にみられた自由記述 | |
| 2 | 【学校における実際の仕事内容からの学び】7名 | |
| 3 | ・先生が学校栄養職員として勤務していた時に事業のやり方などとても参考になりました。 | |
| 4 | ・先生の実体験等の他の授業では聞けないお話が聞けてよかった。 | |
| 5 | ・実際の授業の様子を教えていただけるので面白いです。 | |
| 6 | ・実際の職場で働いた時の写真などが見られてよかったです。 | |
| 7 | ・実際に先生が行った食育の授業の様子を見せていただくことが多いのでとても楽しいです。 | |
| 8 | ・実際の話を例に挙げて授業をしていたのでわかりやすく楽しく学べた。 | |
| 9 | ・実際の学校ではどのような様子なのか話が聞けて勉強になりました。 | |
| 10 | 【学校や子どもに対する理解の深まり】2名 | |
| 11 | ・子どもたちの様子が少しわかった。 | |
| 12 | ・先生の授業は学校という所がより身近に感じられるものでとても面白く楽しかったです。 | |
| 13 | 【学校で働くことに対する意欲の向上】2名 | |
| 14 | ・先生の授業を受けて小学校で働きたい気持ちが高まりました。 | |
| 15 | ・学校で働くのは楽しそうだと思いました。 | |
| 16 | 【説明方法に対する評価】1名 | |
| 17 | ・スライドが分かりやすかったです。 | |
| 18 | 【学習内容に対する要望】1名 | |
| 19 | ・プレゼンテーションやロールプレイなどがもう少し増えたらよりイメージがつきやすいのかなと思います。 | |
| 20 | | |

| | A | B |
|---|---|---|
| 21 | 表6 栄養教諭論実践研究 授業評価にみられた自由記述 | |
| 22 | 【作業内容の説明の不足】4名 | |
| 23 | | ・全体計画などまだ理解が浅いので、戸惑うこと、どう進めていけば良いのかわからない時があった。 |
| 24 | | ・ワークシートについてもっと詳しく説明して欲しかった。 |
| 25 | | ・ワークシートの埋め方に差があり、どこまでやるべきなのか示されているともう少し作業しやすかったです。 |
| 26 | | ・一連の流れはわかったが、学校目標や児童の実態がある程度示されているところから食に関する指導の献立作成の方がやりやすいと思った。 |
| 27 | 【作業量の負担】10名 | |
| 28 | | ・授業時間に内容が収まりきれていなかった。 |
| 29 | | ・1人でやるにはすごく量が多くて大変でした。 |
| 30 | | ・とても自分のためになったけど、個人で全てやるのは少し大変でした。 |
| 31 | | ・すべて1人で指導案まで考える事は自身のためになったが負担が大きすぎた。 |
| 32 | | ・最後の授業で皆の模擬授業を見ることができてとても勉強になりました。 |
| 33 | | ・短期集中型の授業だったので量が多く大変でした。 |
| 34 | | ・他の授業、課題、国試対策等がある中で、個人でやる事はとても負担だった。 |
| 35 | | ・1人で全部仕上げるのは大変だった。 |
| 36 | | ・授業を作る流れを理解することができた。最初から最後まで1人で完成させるのが少しいっぱいいっぱいだった。 |
| 37 | | ・指導の年間計画など1人でやることが多く、本科目で何を1番得たらよいのか、重点を置いたら良いのか分からず、ただワークシートの穴を埋めるだけだった。模擬授業に重点を置くならそれまでの過程の負担を減らしてほしい。 |
| 38 | 【グループワークの要望】3名 | |
| 39 | | ・2、3人のグループで行っても良いと思った。 |
| 40 | | ・個人個人でやるのではなくグループになって取り組みたかったです。 |
| 41 | | ・3、4人の少人数でも良いのでグループワークにして欲しかった。 |
| 42 | 【1人で作業したことで感じた学習のメリット】2名 | |
| 43 | | ・1人でやったことで全部が理解できてよかったです。大変だったけど力をつけることのできる授業でした。 |
| 44 | | ・1人で食に関する指導の全体計画から指導案まで考える事は勉強になった |
| 45 | 【模擬授業を行ったことによる学び】8名 | |
| 46 | | ・発表をしたり、見たりすることで色々と参考になることが多くありました。 |
| 47 | | ・最後にクラスみんなの計画内容や模擬授業の発表を聞くことができて自分では気がつかない発想や視点を知ることが出来てためになりました。 |
| 48 | | ・他の人の発表も見ることができたので学ぶことが多かったです。 |
| 49 | | ・授業をするのは難しかったですが、どのようなテーマで行うと子どもが興味を持ってくれるのか、どのような言葉で伝えれば子どもの心に響くのかを考えることができてとても勉強になりました。 |
| 50 | | ・最後の授業で皆の模擬授業を見ることができてとても勉強になりました。 |
| 51 | | ・教育実習に行く前に自分で指導案を考えることができてよかったと思います。 |
| 52 | | ・皆の考えた授業を聞けて参考になる部分が多くてよかった。模擬授業を行うことで自分の見直す点がわかったので良い経験になったと思います。 |
| 53 | | ・他の人の発表を聞くことで聞き手と指導側のどちらの立場も体験できました。 |
| 54 | 【この授業全体による学び】1名 | |
| 55 | | ・全体計画や指導案を作る中で食に関する指導目標や評価などを再認識することができました。 |